

第2群の座長をつとめて

前田幸子

(金沢大学医学部附属病院)

第2群を担当させていただきました。私の感想を含め、簡単に発表された研究について述べてみたいと思います。

第1席は公立加賀中央病院の林奈穂子さんの発表でした。乳房切除術の術前看護の再考を目的に、手術を受ける患者への面接調査で、行動や心理変化を調査した研究でした。個々の心理を知り、どのような看護がふさわしいか質的に調査されました。心理状態の変化を知ることは非常に難しい点があったと思います。私達看護師が患者の立場に立つための原点が、患者の言葉に耳を傾け知ることと強く感じました。

第2席は金沢社会保険病院の諸江由紀子さんの発表でした。看護師の心の動きに着目し、対応が困難と感じている場面で、逃げずに看護を続けるためにどのようなことを強化していけばよいかを明らかにする研究でした。経験や体験から得る認識について考えると、私達看護師が一個人に戻った時、どのような生活をしていけば良いか、生活の質を考える機会となったと思います。また、経験が無くても積極的な専門的知識の学習が大切であることが裏付けられた研究だったと思います。

第3席、第4席は石川看護研究会看護教育プロジェクトの研究でした。

第3席の奥名司夫さんの研究は基礎教育と卒後

継続教育の内容の検討を目的として新卒者の看護技術・職場適応について調査した研究でした。臨床現場にいると『教育カリキュラムが変わった』、『実習時間が短くなった』などの情報は入ってきますが、新卒看護婦は今までとどう違い、どのように卒後教育を変化させていけばよいか悩むところだと思います。研究結果から「看護過程の展開」が毎日必要とされているのに自信がない項目とわかり、臨床現場での教育に力を入れていく必要があると感じました。

第4席は藤田三恵さんの発表で看護教員の課題を模索する研究でした。教員となった以降の教員自身の教育訓練の必要性があらためて示唆され、臨床現場でも共通する点と感じました。

今回座長を行うに当たり、与えられた群の発表を時間どおりに進めることと、発表者が自分の述べたいことをきちんと述べられることを心がけました。発表者の中にははずいぶん緊張していた方もおられ、もう少し気持ちを楽しませて差し上げられなかったかと反省しています。また、第3席の奥名さんの発表がスライドのトラブルで何分か中断し、きちんと発表内容が会場の皆さんに伝わったか心配でした。私自身は、思わぬアクシデントにどのように対応すればよいか、対応の未熟さを反省すると共に、勉強になった1日でした。